

# 六大戦 部便り

## 目次

### 1. 六大戦 講評

- 1.1 監督より
- 1.2 主将・女子主将より

### 2. 六大戦 試合経過

### 3. 選手の言葉

### 4. 試合結果

### 5. 自己記録更新者一覧

### 6. 主務より

## 1. 六大戦 講評

### 1.1 監督より

#### 監督・藤田靖浩

今年の六大戦も昨年に続き慶應日吉グラウンドで開催されました。強風が吹き荒れるコンディションで、大会記録は0と全大学とも記録はかなり伸び悩みました。東大の結果は男女とも5位。男子は投擲の差が響き立教大学に追いつくことが出来ませんでした。跳躍で得点を積み上げたことで久しぶりに明治大学を振り切りました。

冬季練習の成果を発揮した選手もいますが、それぞれの種目でエース以外の実力はまだまだ不足していることを実感する結果となりました。関東インカレまでしっかりスピードを意識した練習に励んでいきたいと思います。

主な記録としては木下が、技術的な修正点はかなり多いながらも走力を活かして三段跳で14m96の2位、走幅跳で7m12の5位、三段跳と同時刻開催の走高跳でも入賞。主将の近藤が1500mで3'59"20の4位、5000mで14'12"17の2位でした。特に近藤の5000mは総合順位が左右されるプレッシャーの中13分40秒台をはじめとする格上をスパートで振りきっており、スピード面での実力もついてきたことを証明しました。

新入部員も徐々にグラウンドに集まり出しました。今年是对校戦での去年の雪辱を果たすべく、部員一丸となって頑張っていきたいと思います。

### 1.2 主将・女子主将より

#### 主将・近藤秀一

まず最初に、応援に足を運んでくださった多くのOB・OGの皆さま、ありがとうございます。皆さまの応援や叱咤激励が現役部員の励みとなっています。

今年是对校戦の一つ一つに強い目的意識を持って臨んでいきます。その上で、六大戦は格上相手との戦い方を養うことや、関東インカレに向けてチームの現状を把握することが目的の試合と決めました。

結果としては、走高跳の赤塚、400mHの松田など、悪コンディションの中で関カレ標準を見据えるパフォーマンスがありました。一方で状態が芳しくないエース格選手も見られるので、個人レベルに落とし込んで反省する必要があります。

チーム全体では54点を得点し、明治大学に1点差で勝利の5位と悪くないシーズンインができました。昨年は32.5点で6位だったことを踏まえると状況は改善しつつあります。「〇〇大学と何点差！」といった対校戦ならではのハラハラドキドキを久し振りに味わうことができました。

今回得られた収穫と課題を糧に、今年はブレイクスルーを起こせるよう部員一同精進していきます。今後ともご支援ご声援のほどよろしくお願い致します。

### 女子主将・高石涼香

OB・OGの皆様方には日頃より多大なご支援・ご声援のほど感謝しております。

六大戦は去年エキシビジョンという形で女子も対校種目が導入され、今年から正式に6人制という形で対校戦として開催されることになりました。対校戦としてスタートしてから日が浅いのに加え、六大学の女子は大学によって選手層にばらつきはあるとはいえ、とりわけ短距離やフィールドには全国レベルの選手も何人か出場していましたし、今後女子についても大会としてのレベルが上がっていくことは予想できるでしょう。

今年はこの時期にレースに合わせられる部員が少ないと判断したため、女子パートとしてはチームとして臨む対校戦として六大戦を意識することはせず、記録を出すために個人が専門種目で出場するという形をとりました。関東インカレ標準を目指す部員にとっては四月末から五月の頭までの競技会がもっとも合わせるべき場となりますし、今後の対校戦を目標として見据える部員にとっても同じ時期がシーズン前半の最初の山となってくるはずです。どこに照準を合わせるべきかしっかりと見定め、そこに向けて目的意識を持って日頃の練習に一同取り組んで参ります。

今後も引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

## 2. 六大戦 試合経過

◎トラック種目

### 9:40 男子 400mH 予選

東京大学からは1組3レーンに松田(3年)の出場。天候

は晴れて、朝一番のレースだったこともあり気温は落ち着き走りやすいコンディションであった。

展望としては、法政、早稲田が抜けておりいかに上位に引き離されないか、決勝に進出できるか、本人の調子も上向きでいかにタイムを更新していけるのかに期待がかかるレースであった。

号砲とともに各選手勢いよくスタート。法政、早稲田の両選手はスタートから積極的な走りをしたため、松田は前半から追う展開となった。バックストレートではダイナミックな走りを見せ前方を走る2選手を猛追し、前半の差を少し縮めた。後半は前を走る2選手に比べて余裕はなく苦しい走りとなったが、なんとか持ちこたえ56"61の3着でフィニッシュした。東大競技会で出したSBの更新とはならなかったが、決勝につながる素晴らしい走りを見せた。

下馬評を大きく覆す結果にはならなかったものの、決勝での自己ベスト更新と上位入賞に期待が持てる走りだった。決勝ではこれまで以上にハイレベルな走りを求められるため、いかにして自分の走りができるか、ということが鍵になると予想される。

### 10:40 男子 100m 予選

1組2レーンに井上(2年)、2組7レーンに伊藤(3年)の出場。井上は既に200mの自己ベストを更新するなど、実力が付き調子もよい。有力選手も多く、着順は厳しいものの、自分の走りをして関東インカレの標準を切るようなタイムを出せば十分にタイムでの決勝進出が見込まれる。伊藤は阿久津(3年)と交代での出場となるが、自己ベストとなる10秒台を目標にしての試合となった。

気温が少し下がり、風は少し向かっている。最高とは言えないコンディションの中で競技開始。1組の井上はいい反応を見せ、加速する。中盤からは10秒前半の記録を持つ慶應の永田と早稲田の佐野が他を引き離すが、井上も3番手で食らいつく。しかし、ラストで立教の川上にさされてしまい、4着でフィニッシュ。3着と0"01差の11"01(-0.5)であった。この時点ではタイムで拾われる可能性はある。次に2組のレース。スタートから一次加速の局面で伊藤は他の5大学の選手に差をつけられてしまう。中盤からはそれほど差をつけられることなく走る。結果、大きく差をつけられた序盤が響き、6着の

11"29(-0.2)でのフィニッシュ。2組目は伊藤を除く全員が10秒台と、1組よりレベルの高い組であった。結果1組3着の立教の川上までがタイムで拾われることとなり、井上は決勝進出を逃した。

井上は総合得点で東大が争うことになる立教の選手に負けての予選敗退となり、詰めの甘さを露呈することになった。しかし、他の選手も自己ベストは出ていないようなコンディションの中で、大学ベストタイを出したことは評価できる。伊藤は狙っていた記録は出ず、勝負にも置いて行かれる悔しい結果となってしまった。しかし、シーズンインから調子を上げており、関東インカレを目指してこれからの期待できる。短距離パートとしては、パート内の選抜メンバーでさえ決勝に行けなかったという現状をかみしめ、1人1人が自己ベストを更新するだけでなく、対校戦・インカレで戦う他大の選手を意識してトレーニングに励んでいきたい。

### **11:05 男子 3000mSC 決勝**

天候は曇り。気温は高くなかったが強い風が吹き始めていた。スタート直後栗山は先頭集団後方でレースを進めた。大庭は先頭集団からは離れ自分のペースで走る。800mほどで先頭集団がばらけ始め栗山も前と少し差が開く。1000m通過は栗山が3'04で8番手。大庭が3'10で11番手。1600mで大庭が慶大の選手を抜き10番に上がり、栗山も徐々に7番目の選手に近づく。2000m通過。この1000mは栗山が3'20。大庭が3'27。2000m過ぎから栗山が失速しだし順位を9位に下げる。ラスト1周で大庭が栗山を抜き順位が入れ替わる。大庭はラスト1周で立大の選手を猛追するも惜しくも届かず9'59"44の9位でゴール。その後栗山が10'04"02の10位でゴール。

持ちタイムが格上の選手が多い中難しいレースを強いられ2人共思うようなレースができなかったようなのでこのリベンジをこれからの対校戦でしてほしい。

### **11:50 男子 400m 予選**

1組7レーンに小嶋(4年)、2組7レーンに近藤(2年)の出場。小嶋はこの冬の練習を終えて加速力の向上を実感しており、関東インカレの標準切り、及び決勝進出を目標に据えてのレースであった。一方の近藤は

入部からの1年間で着実に実力を伸ばし、今大会で初めて対校戦の出場が叶い、健闘が期待された。

天候は曇り。気温がやや下がり風が少し吹く中で競技が開始した。1組目のレース。7レーンからスタートした小嶋は冬で鍛えた加速力を活かせず、序盤から内側のレーンの選手たちのペースに置いて行かれてしまう。100m地点ですでに6レーン早稲田の村木に並ばれる。その後も徐々に差は広がっていくばかりで、詰まることなく最下位の6着でゴール。タイムは5着と1"52差の52"10であり、決勝進出は絶望となった。続いて2組目、近藤のレース。序盤から積極的なレースを仕掛け、バックストレートの途中まで6レーンを走る明治の中西と並走する。しかしそのままペースを上げることはできず、内側の選手たちに次々と抜かれて差を広げられ、最下位の6着でゴール。結果、5着と1"96差の51"18であった。

小嶋は六大戦という強豪選手に囲まれる場でうまく実力が発揮できない結果となり、弱さが露呈した。今後に向けて修正が望まれる。一方近藤は現時点での実力を発揮し自己ベストを更新したものの、六大学の選手たちには全く敵わない結果となった。現状、東大短距離パートでは400m選手の層の薄さが目立っており、今後の対校戦に向けて大幅な実力向上が不可欠となる。

### **13:20 男子 1500m 決勝**

近藤(4年)、大島(4年)の出場。近藤は3'50を切る自己ベストを持つ選手が集まる中、なるべく高得点を持ち帰りたい。一方初対校となる大島は、今後の対校戦に向けて経験を積みたい。レースの時間は気温・日差しともに穏やかだったが、風がかなり強くスローな入りを予感させた。

スタートするとやはり一塊の集団となり、東大の二人はその後方につく。400mの通過は近藤が70"1、大島が70"6。流石にペースが遅すぎたのか400m通過と同時に法政大学の選手が飛び出し、ペースが一気に上がり集団は縦長になった。近藤はしっかりと前方の集団についたが大島は集団からは離れてしまった。800mは近藤が2'12"9、大島が2'17"2での通過。その後も先頭集団は速いペースのまま進み、ラスト一周で近藤が前に出て仕掛

ける。1200mの通過は近藤が3'15"4、大島が3'29"8。近藤はラスト200mまで先頭を走り続けたが、ラストは他大のスピードランナーに刺され3'59"29で4位。大島はそのまま一人旅が続き4'19"45の11位だった。対校得点は5点だった。

今後の対校戦は近藤だけでなく、ほかの選手も得点が期待できるものが多くなるが、だからこそ2番手3番手がいかに一点でも多く獲れるかが重要になる。今回初対校の大島のみならず他の選手も当事者意識をもって今後の対校戦に臨みたい。

### **13:45 男子4×100mR 決勝**

村井(3年)-阿久津(3年)-井上(2年)-伊藤(3年)の走順で一番外の7レーンに出場。エントリーメンバーのうち3人が怪我や体調不良で出場困難であったため、本来のリレーメンバーとは異なるオーダーでの出場となった。バトンがうまくつながるかどうかは鍵となる。

観客は皆、静かにスタートを見守る。強風の音のみが聞こえる中、号砲が鳴り6校が一斉にスタート。1走の村井は素晴らしいスタートをきり、力強い加速で内側の明治を離していく。他校の選手に引けを取らない素晴らしい走り。2走の阿久津にバトンパス。やや詰まったバトンパスとなったがうまく繋ぐ。エース格の選手が集まる2走、阿久津は調子が上がっていないのもあって本来の走りではないように思われる。他校の選手に離されてしまうが、良いバトンパスで3走の井上へ。井上はラップ9秒台の力走。100m予選の悔しさを晴らすかのような走り。4走伊藤にバトンを繋ぐ。立教とほぼ同時に4走へとバトンが渡った。伊藤はいい走り。最後まで立教の選手とのデッドヒートを繰り広げるも0"05差の僅差で力及ばず。6位、41"90という結果で1点を獲得。5位の立教とは0"05差で悔しい結果となった。

急遽組んだオーダーのなかうまくバトンをつないだが、本来走る予定だった選手がこの大会に合わせられなかったことは反省が必要である。今後の記録向上に期待したい。

### **14:20 女子800m 決勝**

高石(4年)の出場。風が強く、体感温度も朝より寒い中でのレースとなった。高石は冬季練習後、先日のレース

で1500mのベストを大幅に更新しており、着実な成長を見せている。本レースでは、関東インカレへの布石となる好結果が期待された。

号砲後、ブレイクの時点で高石は先頭に立ち、レースを引っ張る。400m手前で慶應の選手が上がってきて、ここで初めて前を譲る格好になった。400mの通過は70"7。高石は前を行く選手にも冷静に対応し、バックストレートに入っすぐの場所で切り替え、一気にかわした。これに反応したのは早稲田の選手一人のみで、高石のすぐ後ろに付ける形でホームストレートに入る。最後の直線で早稲田の選手はもう一段スパートをかけたが、高石は応戦することができず、そのまま2'19"10の2位でゴール。2点を獲得した。

六大学のハイレベルな選手の中でも、安定した実力を示す結果となった。ただし、強風のコンディションを考慮すると、レースプランには若干改善の余地があったようにも思われる。関東インカレの舞台で最高のパフォーマンスを発揮すべく、今回の収穫を活かしてほしい。

### **14:35 男子800m 決勝**

坂口(4年)、小野(3年)の出場。強風が吹き荒れており、試合前よりスローペースでのレース展開が予想されていた。

予想されていた通りレースはスローペースで進んだ。200m付近から大きな集団が形成され、坂口と小野は集団後方を走る。200m以降もスローペースが続くも400m手前に差し掛かる頃、小野が集団先頭にまで位置をあげてきてレースが動き始める。400mを小野は62"3、坂口は62"8で通過する。500mで全体のペースがもう一段階上がり、そこで遅れた小野は集団に飲み込まれて後方にまで下がってしまう。坂口は後方にて集団について行く。600mからは更にペースが上がり、ラストスパートで勝負する形になった。坂口はラストスパートで前の選手を追うも、他の選手を抜くには至らず2'01"87の8位でゴール。小野は最後に失速してしまい2'03"34の10位でゴール。東大はこの種目で1点獲得した。

六大学のレベルの高さに加え強風も影響して、六大学の選手との実力差を見せつけられる形になった。坂口も小野も、レース中の位置取りや実力面においてまだまだ伸ばすところがあるので、今回の反省を活かし、また一

段と強くなって関東インカレでの活躍を期待したい。

### **14:50 男子 400mH 決勝**

東京大学からは2レーンに松田(3年)の出場。天候は曇りで時折強風が吹きつけ気温が下がるなど、グラウンドコンディションは決して良いものではなかった。

展望としては、決勝に進んだ選手の中では予選のタイムが一番遅かったこともあり厳しいレースになることが予想された。だが予選の走りを見ると決して動きは悪くなく、自己ベストの更新、対校選手として少しでも多く得点することが期待された。

号砲とともに勢いよく選手が駆け出すと、レースは前半から各選手が積極的に飛ばしていく展開となった。各選手がグングンとスピードを上げていくなか、松田も必死に食らいついたが他選手との力の差も見受けられた。最後のカーブを曲がり切るまでは前を走る選手との差がかなりあったものの、ホームストレートでは意地の走りを見せ、あと一步というところまで迫った。結果としては55"94とSBを更新し7着で2点獲得。強豪選手がたくさんいる中で最後まで諦めない走りをした。

他大学の対校選手との力の差が明らかとなった今回のレースだが、同時に他部員にも刺激になる走りを見せてくれた。今後の走りにも期待し続けたい。

### **16:20 男子 5000m 決勝**

近藤(4年)、阿部(3年)の出場。気温は高くなかったが風が強く走りづらいコンディションではあった。近藤は上位入賞が、阿部は厳しい戦いが予想された。

レースは12名でスタート。風の影響でスロースタートとなり、近藤、阿部ともに集団の後方につく。近藤、阿部はそれぞれ2'53"、2'54"で最初の1000mを通過。近藤は少しずつ前に出てきて2000m時点で集団の中央まであがる。この1000mは2'52"。他大の選手が集団から落ちていく中、阿部も徐々に集団との間が広がる。この1000mは2'58"。その後、近藤は7人の集団の中央をキープ。阿部は先頭集団から150mほど離されるものの、立大の選手を一人抜く。2000から3000mのラップは、近藤2'53"、阿部3'11"。3600mで集団の先頭がペースを上げたが、近藤は自分のペースを守り4番手につける。近藤の1000mのラップは2'48"。阿部は単独走が続き10

番手をキープ。阿部の1000mのラップは3'10"。近藤は少しずつ順位を上げて2番手となりそのままゴール。ラストの1000mは2'45"で14'12"17の2位。阿部は単独走のまま粘り、ラスト1000mを3'14"で走った。タイムは15'27"87で10位。

近藤は現状の自分の力を出し切りしっかり得点することができた。阿部は力及ばず入賞を逃したが、残り1か月、関東インカレの標準切りを期待したい。

### **16:55 男子 4×400mR 決勝**

7レーンに小嶋(4年)・岩崎(2年)・近藤(2年)・伊藤(3年)の走順で出場。他大学の選手の400mの持ちタイムから厳しい戦いが予想されたが、明治や立教に食らいつき順位を一つでもあげることが期待された。1走の小嶋は前半から積極的なレースを展開し、1つ内のレーンの明治との差を開けた。後半で徐々に追いつかれ、明治とほぼ同時の5~6番手で岩崎にバトンを渡した。岩崎は最初の100mで明治の選手に大きな差をつけられ、その後も前を行くチームの背中を懸命に追ったが、最後まで差を詰めることはほとんどできず、近藤にバトンパス。近藤は午前の400mで自己ベストを大幅更新し好調だったが、2本目のレースということで疲れもあった上、前と差が大きく開いた難しいレース展開だったため、本来の走りができなかった。前と大きな差がついた6位という状態で伊藤にバトンを渡した。伊藤はスタート直後にアクシデントに見舞われるが、その後は落ち着いた走りを展開し、3'28"37の6着でフィニッシュ、1点を獲得。このタイムはアクシデントがあったといえ良い記録とはいえない。今回のマイルメンバー含め、短長ブロック全体として個人の記録を向上し、関東インカレでの活躍につなげていくことが期待される。

### ◎フィールド種目

### **10:00 男子円盤投 決勝**

男子円盤投には佐竹(4年)と田口(4年)の出場。出場者は9人で30mを投げればエイトに残れるものと予想された。最近35mを超える投擲をしばしば見せていたが六大戦の直前に手首を痛めてしまった佐竹は様子を見ながらの出場、冬に入って投擲(特に円盤投)を始めた田口はどこまで記録を伸ばしていけるかと期待されていた。

佐竹は手首が気になるのか思い切った投げが出来ずに1,2投目をファールしたものの3投目でなんとか30m74を記録し後半に繋いだ。田口は1投目を立ち投げでファールしてしまうも2投目で29m03と自己記録を更新し、3投目はファールだったもののベストエイトに入った。後半、佐竹は身体を勞りつつ競技に臨むも3投とも記録を残せなかった一方で、田口は4投目で30m25とさらに記録を更新。6投目ではまた良い投擲であったが残念ながら右に逸れてしまった。結果佐竹は30m74で6位、田口は30m25で8位となった。

投擲経験の浅い田口が六大戦という舞台でいきなり30mを超えてみせたことが投擲パートの今後の勢いに繋がるであろう。怪我がちな佐竹も調子を整えて、両人とも関東インカレや七大戦へと精進してもらいたい。

### 11:30 男子走高跳 決勝

木下(4年)、赤塚(3年)が出場。予報では雨であったが、当日はくもり。日の直射はなく、気温はそれほど上がらなかったが、今季最初の対校戦としてはまずまずのコンディションとなった。木下は今季初戦。赤塚は今季3戦目であるが、直前に自己ベストを1cm更新し調子は良い。木下は競技時間が三段跳と被ったため走高跳は記録だけ残すことに。170をクリアしてピットを去る。三段跳への良いアップとなったか。赤塚は180からのスタート。短い助走で軽々とクリア。続いて185、190も難なく飛び越え、自己ベスト195に挑む。1本目、2本目は失敗。2本目はバーにわすがにかかった惜しい跳躍に見えた。期待がかかった3本目、力強い踏切で見事にバーを超えた。次の2mは3本とも失敗し競技終了。見事にベストを更新した赤塚が5位で4点、木下が7位で2点を獲得となった。昨季後半は怪我で苦しんだ赤塚だが、そんなことは忘れてしまうような見事な跳躍。近く2mを超えるだろう。

### 11:30 男子三段跳 決勝

毛利(4年)、木下(4年)の出場。20度弱の涼しい気温ながら、風が非常に強く、しかも風向きが頻繁に変わってしまう、難しいコンディションであった。

1本目では、木下は走高跳直後ではあったが、毛利、木下ともに慎重な跳躍で、13m58、14m29と記録を残し

た。2、3本目と、両者とも記録を伸ばしにいき、毛利が13m80、木下が14m36を記録し、この時点で毛利が5位、木下が3位でベストエイトに進んだ。

後半、風が強く、向きもさらに複雑になったことで、他大学の選手も、なかなか記録を伸ばせずにいた。足首の痛みが出てきていた毛利も苦しみ、潰れる跳躍が増え、記録を伸ばすことができなかった。一方の木下は、助走の調子が後半にかけて良くなってきたこともあり、6本目に14m96と記録を伸ばし1位に上がったが、続く法政大の選手に抜かれ、2位で競技を終了した。毛利は5位で終了した。

シーズン初戦となった六大戦だったが、難しい試合でのシーズンインとなった。コンディションの割には両者とも良いスタートを切れたように思う。しかし、冬季練習をしっかりと積み重ねた二人ならば、まだまだ記録は伸びうるはずである。関東インカレでの活躍に期待したい。

### 12:30 男子砲丸投 決勝

男子砲丸投には、八木澤(4年)が出場した。本来は佐竹(4年)もエントリーしていたが、円盤投げに専念するという事で棄権した。グラウンドコンディションは曇りで4月にしてはやや寒い天候であった。

1投目から八木澤は入りとしては悪くない記録を残す。2投目では、八木澤は上体が突っ込んでしまい、記録は伸びずに終わってしまったが、3投目にうまく修正して、ちょうどよく力を砲丸に伝えられ、記録を10m75まで伸ばす。ただこの記録も、八木澤の自己ベスト10m96に比べてはまだまだであった。3投目までの試技の結果、八木澤はベスト8に残った。ただすでに14m台を投げている選手が2人ほどおり、レベルの高い大会となっていた。4投目、八木澤はバランスよく投げれていたが、記録はあまり伸びなかったため、あえてサークルを前から出てファールとした。次の5投目は力が伝えられていると分かる力強いフォームで10m67を記録した。最後の投擲に向けて応援している部員に期待させるような投擲であった。さて、最後の投擲6投目である。ここで八木澤は会心の投擲を見せ、応援していた部員一同は湧いた。記録は11m近く、10m98であった。

結果としては、八木澤は6投目の10m98で6位入賞

を果たした。この記録は彼のベストを2cm更新した記録であったが、あと2cmで11mというところで惜しくもそれを逃した形となった。今後の八木澤の活躍には益々期待である。

### 14:30 男子走幅跳 決勝

4番に木下(4年)、8番に栗原(2年)の出場。気温があまり上がらず、強風が吹き荒れる中での試合となった。

1本目は強風で感覚がつかめず木下、栗原ともにファールとなり、2本目で巻き返しを図るも木下は空中動作が崩れ記録はあまり伸びず、栗原は再びファール。そして3本目は木下が勝負強さを見せ7m12に記録を伸ばす。栗原は踏切が上手くいかず6m45となり、木下のみがベスト8に残った。4、5本目はファールとなり、6本目も記録を伸ばすことはできなかった。結果、木下が5位、栗原が10位となり4点の獲得となった。

今回はシーズンインの試合となったが、ファールも多くあまり実力を発揮することはできなかった。順位だけではなく、他の強豪校の選手達は強風にも関わらず着実に記録を残しているという点でも見習うべき点が多く見受けられた。今回の反省点を活かして今シーズンの成長に期待したい。

### 14:30 男子棒高跳 決勝

三宅(3年)、片渕(3年)の出場。当日は雨の予報をくつがえし朝は気温が高かったが、時間が経つにつれて曇り始め競技時刻には風が吹き荒れ、気温もかなり低かった。強風でポールが煽られて全助走跳躍ができないため全ての選手が短助走で試合に臨み、三宅と片渕は10歩助走で出場した。

片渕は最初の2m60を余裕を持ってクリア。続いて2m80は2回めにかなり惜しい跳躍を見せるも超えることはできなかった。三宅は余裕を持って3m80からの登場。4mはバーに体を当てるもクリア。4m20から12歩に助走を伸ばそうとしたが、競技中に助走歩数を変えるという普通あり得ない操作はうまくいかず1本目は駆け抜け、2本目はポール立て、3本目はアップライトのずれによって失敗。ここで三宅は競技終了となってしまった。

結果、三宅が4位で5点、片渕が8位で1点を獲得し

た。三宅が実力を出せず優勝争いに絡めなかったことは残念である。ただ、片渕が初対校で初得点を獲得したことは今回大きな見どころであった。今季はまだ始まったばかりである。三宅の復調と残りの対校戦での多くの得点獲得が期待される。

### 14:30 男子やり投 決勝

東大からは昨年47mを投げ、50mが視野に入ってきた中村(2年)と、怪我で欠場の八木澤(4年)に代わって石田(2年)が出場した。気温こそ低くなかったものの、風が強く頻繁に風向が変化する難しいコンディションであった。今大会は例年よりやり投げのレベルが高く、他大学の選手は全員50m以上の資格記録を持っていたため上位へ食い込むことは難しいと思われた。出場者が8人だったため全員に6投の権利が与えられた。

中村は肘の状態が芳しくなく、肘を庇ったような投げに終始した。やりの軌道が高く推進力を持たせることができなかった。6投すべて40m前後に終わり、2投目に記録した41m64、7位で競技を終えた。

石田は2回のファールや、助走段階でのやりのブレなど、助走が噛み合っていない様子が見受けられた。また、昨季からの課題であったやりの穂先が上を向きすぎるのを修正しきれず、4投目に記録した40m74、8位で競技を終えた。

実力を考えれば上位へ食い込むことは難しかったとはいえ、2名とも昨季の記録に遠く及ばない結果に終わり、冬季練習の成果が投げに繋がられていない印象だった。砲丸の八木澤、円盤の田口が記録を伸ばしていく中、やり投げの選手については伸び悩みが続いている。七大戦も今回と同じく50m以上を投げなければ戦えない。今回見つけた課題を練習で早急に克服していくことが求められる。

## 3. 選手の言葉

### 短距離3年 松田光陽 (400mH)

男子400mHに出場して、予選、決勝を走らせていただき、なんとか決勝では55秒94で大学ベストを更新するこ

とができました。今回の試合では関東インカレ標準の55秒50を最低ラインの目標としていたため、記録が出なかったという点で非常に悔しい結果となりましたが、一流のトップ選手と決勝という舞台を走らせていただいたこと、決勝のほうがコンディションが悪かったにもかかわらず、タイムを上げられたことは大きな自信になりました。関カレ標準切りはゴールデンウィークにお預けとなりましたが、今回は確実に切りたいと思います。今回の試合は正直直前での調子は最悪でした。冬季練を経て確実に速くなっていましたが、それらの自信を全て壊すほどの不調が続いていました。4月に入って暖かくなり周りが速くなっているにもかかわらず、自分はスピードが上がらず、むしろスピードが落ちているのはかなり精神的にも辛かったです。予選は標準切りを意識しすぎため、ひどく緊張しましたが、決勝は一流選手と同じ舞台に立てることにワクワクしました。陸上を純粹に楽しむ、それがどれだけ大事かを痛感しました。これからの試合400mHという特性上、辛い場面もたくさんありますが、試合を楽しむということを忘れずに臨みたいと思います。

### 短距離2年 井上昂 (100m 4×100mR)

100m と 4×100mR に出場させていただきました、短距離2年の井上です。OBOGの皆様には日頃より温かいご声援をいただき、誠にありがとうございます。

今回の対校戦は力の差を感じる相手との戦いになりましたが、臆することなくレースを楽しもうという姿勢で臨みました。

レースにおいて私は2レーンであったため他の選手を気にすることなく、自分の走りに集中できました。自己記録で上回る選手を相手に渡り合うことはできましたが、結果は4着で決勝を逃すこととなり対校選手として得点を取れない不甲斐ない結果に終わってしまいました。続くリレーでは3走を務めさせていただきましたが、大きな力の差を感じる悔しい結果となりました。

シーズンインの対校戦でしたが、個人としてもチームとしても悔しい結果となりました。私個人としては実力不足で敗れましたが、タイムは昨年からの着実な成長を感じております。また、課題についても充分把握できており克服するべく練習に取り組んでおります。関カレに

向けて、更に後の対校戦に向けて一層精進して参ります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 中距離4年 坂口諒 (800m)

男子800mに出場しました、中距離4年の坂口です。六大戦の800mは例年レベルが高く、関東インカレの予行演習の場としてはかなりいい舞台です。資格記録では僕は10番でしたが、目標を7位に設定しました。レース当日は風があまりに強く吹いていたので、スローな展開を予想しました。スパートにはそこそこ自信があったので、普通に速い展開になるよりは良い順位が狙えるだろうと考え、頭の中で何度もシミュレーションしました。

レースはブレイクの時点でやはりスローになり、400からじわじわと集団のスピードが上がるタイミングで後方にいたことは少し痛かったです。ラスト300でも焦りすぎず、自分に出来る一番のスパートをかけたつもりでしたが、最後の直線で5位くらいまでは狙えると思ったのですが、結局向かい風にやられて脚が止まり、8位に終わりました。

反省として、位置取りの悪さが挙げられますが、これは自信の無さによるものです。端的に言うと実力不足なので、力をつけていくしかないと思います。今後の対校戦では800mで流れを作れるように、強くなります。七大戦では優勝したいです。応援等ありがとうございます。

### 跳躍3年 赤塚智弥 (走高跳)

六大戦では、関東インカレの参加標準記録である2mを跳ぶという目標を持って臨みました。3月に行われた春季オープンで、自己ベストを更新していたので、六大戦の天候が悪くなければ、最低自己ベストは出ると考えていました。

昨年の夏に足首の大怪我をしたことで、自分の動きを内省する期間が生まれたことがよかったと考えています。この期間に自己分析を重ね、悪い点良い点を洗い出し、そのためにすべきこと、そのプランを大まかに作成できたことが自己ベストを更新した要因ではないかと感じています。そのため、冬季にアームアクションや助走の流



れ、体の動かし方などに関する大々的な変更を、自信を持って実行できて、その改革が結果的に成功したのではないかと思っています。

3年で関東インカレに出場するということが、怪我をして以降の大きな目標であったので、大目標を達成できこそしなかったけれど、中間目標を堅実に達成できている点に関しては評価できていると思っています。

標準締め切りまで、残り1ヶ月もないという状況ですが、従来通りの練習サイクルを正確に履行し、跳躍の完成度を高めることで残り短い時間の中でも、大目標である2mを跳ぶことができると信じています。

今後、気温が上がり動きの質が高まって来の中で、怪我をしないよう細心の注意を払いつつ、シーズン通して、継続して自己ベストを更新し、活躍し続けたいと思います。

#### 投擲4年 田口広太郎 (円盤投)

円盤投を始めて半年弱での出場となったため、ターンを中心に技術練習に重点を置いて練習しました。一週間前には32m近い投擲もできましたが、27m近くの投擲にブレることも多く、ムラのあるパフォーマンスとなっていました。ゴールデンウィークの競技会で関東インカレB標準を突破するためには六大戦で30mを投げる必要があると感じていたため、焦りを感じながら当日を迎えました。

試合本番は調子の良さを十分に感じられませんでした。一投目でトップエイトを確実に取りに行くつもりが失敗し、予想以上に緊張していることに気づきました。実際ファールを4つ重ねてしまいましたが、4投目で30mを越えられたのはひとまず安心できました。ファールで32m弱の投擲があったため、調整力の不足を感じました。

今後については、残りの一月で下半身のパワーを円盤に伝えること、ターン後半の加速力を上げることの2点を中心に練習を重ね、必ず関東インカレB標準を突破します。応援のほど何卒よろしくお願い致します。

## 4. 試合結果

### 第51回 東京六大学対校陸上競技大会

#### 男子100m

##### 予選(2組3着+2)

##### 1組(-0.5)

4 井上 昂 東大 11"01

##### 2組(-0.2)

6 伊藤 康裕 東大 11"29

##### 決勝(-0.4)

1 勝瀬 健大 法大 10"82

2 高内 真壮 早大 10"83

3 佐野 陽 早大 10"94

4 永田 駿斗 慶大 10"96

5 米井 健人 明大 10"97

6 東川 隼人 立大 11"03

7 大川 弘太郎 慶大 11"25

8 川上 大輝 立大 11"32

#### 男子400m

##### 予選(2組3着+1)

##### 1組

4 小嶋 健太郎 東大 52"10

##### 2組

5 近藤 哲太 東大 51"18

##### 決勝

1 伊東 利来也 早大 48"15

2 大谷 尚文 慶大 48"43

3 村木 渉真 早大 48"46

4 飯嶋 駿 立大 49"56

5 白幡 大輝 法大 50"22

6 中西 大輔 明大 51"33

7 坂井 悠太 立大 51"84

#### 男子800m 決勝

1 西久保 達也 早大 1'58"89

2 田島 直人 慶大 1'59"14

3 中嶋 敦史 法大 1'59"68

4 三浦 天道 慶大 2'00"83

5	小野瀬 泰誠	立大	2'01"09
6	谷原 知己	早大	2'01"36
7	田村 光輝	明大	2'01"67
8	坂口 諒	東大	2'01"87
10	小野 康介	東大	2'03"34

**男子 1500m 決勝**

1	飯島 陸斗	早大	3'57"42
2	河村 一輝	明大	3'58"15
3	久納 碧	法大	3'58"83
4	近藤 秀一	東大	3'59"20
5	齋藤 雅英	早大	4'02"02
6	小野 友生	慶大	4'02"44
7	岡田 和大	明大	4'02"68
8	久保田 剛史	慶大	4'05"08
11	大島 知之	東大	4'19"45

**男子 5000m 決勝**

1	太田 智樹	早大	14'03"98
2	近藤 秀一	東大	14'12"17
3	前田 舜平	明大	14'13"33
4	阿部 弘輝	明大	14'16"23
5	新迫 志希	早大	14'24"49
6	佐藤 敏也	法大	14'26"03
7	青木 涼真	法大	14'29"31
8	栗本 一輝	立大	15'03"51
10	阿部 飛雄馬	東大	15'27"87

**男子 110mH****予選****1組(-5.1)**

松田 光陽	東大	DNS
-------	----	-----

**決勝(+0.5)**

1	古谷 拓夢	早大	14"09
2	金井 直	早大	14"38
3	平賀 健太郎	明大	14"61
4	吉間 海斗	法大	14"65
5	富岡 達人	慶大	14"80
6	山田 龍	慶大	14"86
7	松浦 岳	立大	15"70

8	舟橋 英我	立大	17"40
---	-------	----	-------

**男子 400mH****予選****1組**

1	松田 光陽	東大	56"61
---	-------	----	-------

**決勝**

1	豊田 将樹	法大	52"32
2	前山 陽軌	慶大	53"30
3	金子 誠	明大	53"86
4	山内 大夢	早大	53"87
5	折田 歩夢	早大	54"82
6	佐々木 桂樹	法大	55"72
7	松田 光陽	東大	55"94

**男子 3000mSC 決勝**

1	人見 昂誠	法大	9'01"44
2	田辺 佑典	法大	9'05"79
3	吉田 匠	早大	9'10"60
4	大木皓太	早大	9'16"73
5	東島 清純	明大	9'18"32
6	田中 光	慶大	9'46"36
7	中山 陽平	明大	9'46"58
8	渡邊 海	立大	9'52"04
10	大庭 帆貴	東大	9'59"44
11	栗山 一輝	東大	10'04"02

**男子 4×100mR 決勝**

1	法大	亀井—川辺—村瀬—勝瀬	39"86
2	早大	佐野—高内—根岸—古谷	40"14
3	慶大	池内—永田—大川—酒井	40"26
4	明大	橋元—米井—富山—石川	40"70
5	立大	重住—川上—中山—大野	41"85
6	東大	村井—阿久津—井上—伊藤	41"90

**男子 4×400mR 決勝**

1	早大	村木—西久保—松本—伊藤	3'10"66
2	法大	樋口—江藤—白幡—伊深	3'11"30
3	慶大	前山—南—小林—大家	3'13"50

4	明大	金子一橋元一浅川一中西	3'14"54
5	立大	飯嶋一坂井一東川一小野瀬	3'17"08
6	東大	小嶋一岩崎一近藤一伊藤	3'28"37

## 男子走幅跳

1	中村 健士	早大	7m62(-0.2)
2	酒井 由吾	慶大	7m61(+1.1)
3	佐久間 滉大	法大	7m56(-1.0)
4	松添 基理	法大	7m21(-1.1)
5	木下 秀明	東大	<b>7m12(-1.2)</b>
6	根岸 勇太	早大	7m10(-3.3)
7	歳田 将輝	立大	6m86(+1.2)
8	伊藤 丈晃	慶大	6m82(+0.4)
10	栗原 怜也	東大	6m45(+0.0)

## 男子走高跳

1	石川 遼	慶大	2m03
2	芋川 駿	法大	2m03
3	杉本 丞	立大	2m00
4	義永 優樹	慶大	1m95
5	赤塚 智弥	東大	<b>1m95</b>
5	高橋 勇太	立大	1m95
7	木下 秀明	東大	<b>1m70</b>

## 男子棒高跳

1	竹川 倅生	法大	4m80
2	奥平 拓海	慶大	4m70
3	坂本 和真	法大	4m50
4	三宅 功朔	東大	<b>4m10</b>
5	川端 一輝	慶大	4m00
6	松浦 岳	立大	3m60
7	舟橋 英我	立大	3m00
8	片渕 大成	東大	<b>2m60</b>

## 男子三段跳

1	矢羽 健一郎	法大	15m25(+1.6)
2	木下 秀明	東大	<b>14m96(-0.7)</b>
3	萩原 克哉	立大	14m82(+1.3)
4	水口 拓	慶大	13m94(-0.3)
5	毛利 冬悟	東大	<b>13m80(+1.3)</b>

6	根岸 勇太	早大	13m75(-0.8)
7	宗仲 優汰	立大	13m32(+0.9)
8	坂口 大仁	慶大	13m13(-2.5)

## 男子砲丸投

1	天野 光汰	法大	14m85
2	雨宮 巧	早大	14m83
3	曾我 歩希	法大	12m18
4	デンプシー ジャスティン 昇	立大	11m39
5	韓 昇澈	立大	11m04
6	八木澤 光大	東大	<b>10m98</b>
7	佐藤 孝紀	慶大	10m60
8	川端 一輝	慶大	10m10

## 男子円盤投

1	沖見 拓真	法大	46m25
2	曾我 歩希	法大	43m05
3	雨宮 巧	早大	37m70
4	佐藤 孝紀	慶大	32m08
5	デンプシー ジャスティン 昇	立大	31m03
6	佐竹 俊哉	東大	<b>30m74</b>
7	内藤 健太	慶大	30m54
8	田口 広太郎	東大	<b>30m25</b>

## 男子やり投

1	前田 秀悟	法大	65m67
2	鐘ヶ江 周	慶大	60m88
3	齊藤 一樹	法大	56m48
4	安部 広太郎	慶大	56m24
5	舟橋 英我	立大	55m53
6	安達 裕次郎	立大	51m91
7	中村 優太	東大	<b>41m64</b>
8	石田 駿平	東大	<b>40m74</b>

## 総合得点[男子]

1位:	法政大学	157点
2位:	早稲田大学	138点
3位:	慶應義塾大学	115.5点
4位:	立教大学	69点

5位: 東京大学 54点(昨年比 +21.5点)

6位: 明治大学 53点

### 女子 800m 決勝

1 竹内 まり 早大 2'18"17

2 高石 涼香 東大 2'19"10

3 池田 菜月 立大 2'23"15

4 斎藤 杏里彩 法大 2'24"42

5 木村 友香 慶大 2'30"51

6 金尾 里佳 慶大 2'30"94

### 総合得点[女子]

1位: 早稲田大学 16点

2位: 立教大学 10点

2位: 早稲田大学 10点

2位: 法政大学 10点

5位: 東京大学 2点

6位: 明治大学 0点

## 5. 自己記録更新者一覧

(2017年度の記録に関して、学年は2017年当時のものです。)

### 10/21.22 第16回かわさき陸上競技フェスティバル

100m 早川航平(4年) 11"43(+0.6)

100m 近藤哲太(1年) 11"44(+0.8)

### 10/21 第64回平成国際大学長距離競技会

10000m 小林龍史(3年) 33'26"45

### 10/22 第56回全日本50km競歩高島大会

20kmW 千菊智也(1年) 1:39'29

50kmW 渡邊成陽(4年) 4:16'46

### 10/28 第6回順天堂大学競技会

3000mSC 古賀淳平(2年) 9'51"36

5000m 須藤克誉(4年) 15'39"18

### 10/28.29 日本体育大学陸上選手権

800m 大島知之(3年) 2'01"97

### 11/4,5 第25回東大競技会

100m 木下秀明(3) 10"86(±0.0)

400m 坂口諒(3年) 51"29

800m 早川航平(4年) 1'57"4

1500m 早川航平(4年) 4'20"84

1500m 八ツ本真司(2年) 4'23"29

1500m 須藤克誉(4年) 4'25"67

1500m 村田博(1年) 4'50"39

1500m 村井輝(2) 5'13"31

5000m 榊村浩行(1年) 16'02"49

走幅跳 直川史寛(1) 6m40(+0.8)

走幅跳 栗原怜也(1) 7m16(+2.0)

走幅跳 村井輝(2) 6m94(+2.0)

走高跳 村井輝(2) 1m70

十種競技 村井輝(2) 5644点

### 11/11.12 第260回日本体育大学長距離競技会

10000m 松本郁也(1年) 32'15"35

10000m 遠藤正陽(2年) 33'30"39

10000m 榊村浩行(1年) 33'33"47

10000m 妹背雄太(4年) 33'36"97

10000m 伊藤慎(3年) 33'43"24

10000m 大庭帆貴(1年) 33'44"90

10000m 油井星羅(3年) 33'53"23

10000m 古賀淳平(2年) 34'54"77

### 11/20 第29回上尾シティマラソン

ハーフ 栗山一輝(2年) 1:09'45

ハーフ 油井星羅(3年) 1:12'04

ハーフ 須藤克誉(4年) 1:12'19

ハーフ 箕輪創太(2年) 1:14'12

ハーフ 一柳里樹(2年) 1:15'32

### 11/25 平成29年度10000m記録挑戦競技会

10000m 近藤秀一(3年) 29'13"71

11/26 第177回東海大学長距離競技会

3000m 松本郁也(1年) 8'58"43

12/17 第1回国土館大学長距離競技会

5000m 長谷川祐輝(3年) 16'38"91

12/2,3 第261回日本体育大学長距離競技会

5000m 古賀淳平(2年) 15'47"42

5000m 長田将(3年) 15'58"79

5000m 油井星羅(3年) 16'07"51

5000m 一柳里樹(2年) 16'18"99

10000m 須藤克誉(4年) 32'34"32

12/23 第18回日本体育大学女子長距離競技会

3000m 藤原ゆか(3年) 10'34"71

1/1 第66回元旦競歩大会

20kmW 千菊智也(1年) 1:38'46

3/17.18 第26回東京大学陸上競技会

1500m 油井星羅(3年) 4'07"50

1500m 栗山一輝(2年) 4'08"62

1500m 坂口諒(3年) 4'09"67

3/18 第12回日本学生20km競歩選手権大会

20kmW 後藤潤平(2年) 1:33'06

3/23.24 平成29年度関東学連春季オープン競技会

200m 井上昂(2年) 22"00(+1.1)

1500m 高石涼香(3年) 4'35"34

3000mSC 栗山一輝(2年) 9'49"25

3/25 平成29年度第8回国土館大競技会

10000m 箕輪創太(2年) 33'57"57

3/31 第1回国土館大学競技会

5000mW 根津駿介(2年) 29'07"20

4/7 第51回東京六大学対校陸上競技大会

100m 杉本恭一(4) 12"03(-0.6)

400m 近藤哲太(2年) 51"18

走高跳 赤塚智弥(3) 1m95

棒高跳 片渕大成(3) 2m60

## 6. 主務より

### 6.1 応援OB・OG紹介

4月7日に慶應義塾大学日吉キャンパスで行われました第51回東京六大学対校陸上競技大会に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和38年卒 井上尚男

昭和40年卒 石堂怜

昭和40年卒 渡部一之

昭和51年卒 田上静之

昭和54年卒 中谷敬二

昭和54年卒 渡辺芳治

昭和56年卒 坂本修一

昭和57年卒 柳沢健彦

昭和58年卒 浅野浩二

昭和58年卒 景山太郎

平成3年卒 小野満

平成3年卒 馬場勝也

平成13年卒 新妻拓弥

平成23年卒 近藤堯之

平成23年卒 西田昂広

平成23年卒 渡邊拓也

平成29年卒 阿部龍太郎

平成29年卒 加藤騎貴

平成29年卒 軽部智

平成29年卒 深澤竜太

平成29年卒 福島洋佑

平成29年卒 森本淳基

平成30年卒 加藤輝仁

平成30年卒 後藤裕瑛

平成30年卒 寶田雅治

平成30年卒 土井雅人  
 平成30年卒 長久将  
 平成30年卒 早川航平

たくさんの方々に応援にお越しいただきました。心より感謝申し上げます。

## 6.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

5.24(木)～5.27(日)	関東 I.C. @相模原
6.9(土)	国公立戦@上柚木
6.15(金)～6.17(日)	個人選手権@平塚
7.8(土)* 予定	四大戦@大井
7.28(土)～7.29(日)	七大戦@札幌厚別公園
9.6(金)～9.9(日)	日本 I.C. @等々力
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川

※OB戦、一橋戦、京大戦は日程が確定していません。

## 6.3 連絡先

### 9.2 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji\_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: utfbdyri2017@gmail.com)